

人間の喜び

子どもが生まれた時のことを思うとなあ、分かるような気がする。親になることができ、やはりうれしい。喜んでいける。生まれた本人は何も知らぬのに、みんながめでたいと喜んでくれる。めでたいというのは、自分独りが喜ぶんじゃない。みんなが喜ぶところが、めでたいんです。

その子が大きくなり、小学校に行くようになると、めでたいと言う。おめでとうと言われる。中学校に進み、高等学校から大学に行き、結婚をする。みな、めでたいと言うし、おめでとうと喜んでお祝いされる。

みな自分の喜びが、自分だけでなく他の人の喜びになり、喜び喜ばれることになる。喜び合い、お礼を言い合うようになる。こうして育っていく、大きくなっていく。

これがまた、どんなにうれしいことか。

実はそれが、そういう生き方が、人間の喜びだと思いませんか。一方的な喜びだけでなく、おたがいに喜び合う。みんなが喜び喜び合う。それが、めでたいことであり、人間の喜びですなあ。

(前金光教教主のことばから)

Q&A

Q. 金光という名前にはどういう意味があるのですか？

A. 金光大神は「金光とは、金(きん)光るということである。金は天地金乃神の金、光は天つ日の光である。天つ日の光があれば明るい。世界中に天地金乃神の光を光らせて、おかげを受けさせるということである」と語っています。

そして、神様の仰せに添って、世界中にこの光を届け、人類の苦難を救おうとされました。

また天地金乃神様から金光大神に付与された名前(ご神号)が「生神金光大神」であったことにも由来します。

Q. 金光教にお守りはありますか？

A. 金光教には、神社で販売されているようなお守りはありませんが、信奉者が個人的にお守りのように扱っているものがあります。



本部や教会に参拝して取次を願うと、御神米を頂くことがあります。御神米のなかにはお米が入っています。

この御神米は、「天地のお恵みを表すもの」として、また、「その恩恵を忘れないように」との願いが込められたもので、祈りを込めて食したり、拝む目当てにしたり、身につけたりもします。

主な祭典

金光教宣言

大いなる天地に生かされる人間として
すべてのいのちを認め、尊び
神と人、人と人、人と万物が
あいよかけよで共に生きる世界を実現する

ラジオ放送 朝もやの中、天地の声が聞こえる

北海道放送 (土) 札幌	1287kHz	午前5時10分
ニッポン放送 (日) 東京	1242kHz	午前4時30分
東海ラジオ放送 (金) 名古屋	1332kHz	午前5時25分
和歌山放送 (日) 和歌山	1431kHz	午前6時50分
朝日放送 (水) 大阪	1008kHz	午前4時50分
山陽放送 (日) 岡山	1494kHz	午前6時35分
中国放送 (土) 広島	1350kHz	午前5時50分
南海放送 (日) 松山	1116kHz	午前6時00分
RKB毎日放送 (日) 福岡	1278kHz	午前6時50分
宮崎放送 (日) 宮崎	936kHz	午前7時10分

※なお、緊急番組などで、放送日時が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

Webで
チェック!

金光教

検索

ケータイでも
アクセス!



金光教についてのお尋ねがありましたら、
下記へお気軽にご連絡ください。

誕生日ありがとう

私は 30歳の時に初めての子どもを授かりました。

出産にも立ち会いましたが、妻は、練習した「ヒッヒッファー、ヒッヒッファー」という呼吸をする余裕もなく、初めて経験する陣痛のため、「ヒッ…。痛いー!」と、必死で全身の力を振り絞っていました。病院の先生も「もうすぐですよ、がんばって!」と勇気づけてくれます。そして…

「おぎゃー! おぎゃー!」

「おめでとうございます。元気な男の子ですよ」

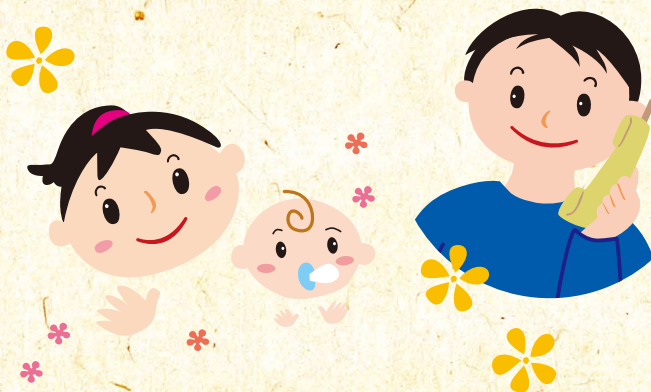
妻は先生から赤ちゃんを優しく手渡され、胸に抱きました。

「お父さんも抱っこしてあげて」

「お父さん? 俺が?」

その時、子どもを授かった喜びと同時に、私は父親になったことを実感しました。そして、これから家族として一緒に過ごしてくれる子どもに素直に感謝しました。

「生まれてきてくれてありがとう」



初めての育児では思った以上に大変でした。おむつが汚れば泣き、お腹が空けば泣く。昼も夜も関係ない。何をして欲しいのか見当もつかず、泣きじゃくる子どもを抱き続けたこともありました。急な発熱の時は夜中に病院を探し回りました。

時には、イライラして妻とけんかすることもありました。でも、母親のお乳を飲みながら眠りにつく子どもの寝顔を見れば、そんな大変さも忘れてしまいます。

最近、「あなたが小さい頃はよく病院に連れていったのよ」という母の話をよく思い出します。自分一人で大きくなったように思っていた私も、わが子と同じように父や母のお世話になって大きくなったんだなあと、つくづく思われるのです。

31回目の誕生日を迎えた日、実家に電話しました。

「もしもし」

「ああ、母さん、ぼくです」

「あなた、今日、誕生日ね。お誕生日おめでとう」

「うん。お父さんとお母さんのおかげで、こうして31回目の誕生日を迎えることができました。ありがとう」

「まあ、あらたまってどうしたの?」

「いや、子どもの世話をしながら、僕もこうしておむつを替えてもらって、お乳をもらって大きくなったんだなーって、最近感じたものだから…。誕生日は周りの人に祝ってもらうものばかり思っていたけど、子どものおかげで、それだけではないなーと思えるようになったんだ。誕生日ありがとう」

両親のおかげで大きくなり、妻と子どものおかげで、自分もまた親にならせてもらいました。

そのなかで教えてもらったこと、

「誕生日ありがとう」。

いつもは照れくさくて言えませんが、家族の誕生日が来るたびに、この世に生まれてきた喜びと感謝をかみしめています。

